

# [開催 報告]2008年2月11日(月・祝) 子どもパークレンジャー事業(一般)

活動場所: 洞爺湖自然体験ハウス、洞爺湖周辺



テーマは「雪の探検家」。レンジャーと一緒に活動しました。レンジャーの仕事には自然について「調べる」という大事な仕事があります。今回は、雪の積もった層や冬の時期に暮らす生き物の調査、コンパスを使い生き物の宝を探しに行ったり、わかんを履いて冬の生き物の足跡調査を行いました。

絵本の朗読「雪の探検家」ベントレーのお話で始めました。ベントレーは雪の結晶を観察した人です。実際に雪の結晶はどんな形なんだろう。結晶のレプリカを顕微鏡で見ました。「形がそれぞれ違うんだね」「空気中の水蒸気の量と温度によって結晶の形が違うんだよ。」雪に形があることを知り驚いた様子でした。

次は実際に外へ出て、雪がどのように積もっているのか調べに出掛けました。あいにくお天気は曇り。約30cm程積もっている雪をスコップで切り込みを入れ、断面に食紅スプレーで吹きかけます。すると、みるみるうちに雪の層がはっきりと見えてきました。過去1ヶ月のお天気と雪の積もり方を観察しました。雪が降る時の天候により、雪の性質が変化します。雪面の上部、真ん中、土の中の温度を測ってみました。するとどうでしょう。各グループで調べた結果、雪の下の土の温度は零度以下にならないのです。「虫がこんなにいる。」あるグループが沢山の虫を見つけました。虫も土の中で春が訪れるまでじっとしているのです。虫も寝ぼけまなこの状態で、起こされてしまいました。

「あっちだぞ〜」とはしゃぐ声。各グループにレンジャーが使う道具、コンパスと指示書が渡されます。指示書通りにコンパスを使いながら進むと・・・そこには生き物達の宝が埋まっていました。あるグループが見つけたのはクルミ。冬に活動している生き物、エソリスは冬の大事な食料源として地中に埋めています。生き物たちの冬の生活の知恵を知りました。

午後はわかん(雪の上を歩く便利な道具)を履いて生き物の足跡探しです。どんな足跡が見つかるのでしょうか。ほとんどの子ども達が初めて履くわかん。つぼ足(何も道具を利用しないで歩くこと)で歩くのとは大違い。わかんを着けたとたん爽快に雪面を走り抜けます「なんの動物の足跡かな〜??」

「ふん見つけた。誰のふんかな?」  
「この足跡こっちまでつながってるよ〜」  
生き物は見ることは出来ないけど、ここにいた証を見てどんな生き物なのか想像するだけで楽しそうです。地図に記録してきた足跡を書き込んで、各グループで見つけた足跡をつなげてみました。ウサギ、キツネ、ネズミ、イタチ、タヌキ、テン、カモ・・・雪の上で足跡が交差していました。体験ハウス周辺では10種類以上の生き物が活動していることがわかりました。

雪の探検家として、そしてレンジャーとして活動した経験を元に、普段の生活でも子どもの豊かな感性を持って活動してくれることでしょう。今年度最後の子どもパークレンジャーたち。みんないい顔してます!

## スケジュール

2/11 「雪の探検家」  
AM 絵本の朗読・雪の結晶のお話  
アイスプレイング「同じもの探し」  
「雪の断面・生き物調べ」、「宝探し」  
昼食  
PM わかんの履き方 講習  
スノーシューハイク「生き物探し」、  
まとめ(感想)



参加人数: 小学生 計14名

男子/11名 女子/3名